



基調講演：地域活性化とユネスコエコパーク～自然資源との共存～

講師：日本ユネスコ国内委員会委員(自然科学小委員会委員長)
人間と生物圏(MAB)計画分科会主査
横浜国立大学学長

すずき くにお
鈴木 邦雄氏

(略歴) 1948年宮城県生まれ。1970年東北大学理学部(植物生態学)卒業。理学博士。助手、助教授を経て、1992年より横浜国立大学教授(環境管理学)。理事・副学長を経て2009年4月から横浜国立大学学長。現在、日本ユネスコ国内委員会委員(自然科学小委員会委員長)、山梨県環境影響等審査会委員。学会関係では、自然環境復元学会会長、日本マングローブ学会会長。専門は生態学および環境マネジメント。植生学研究、地域環境計画、さらにミティゲーション(生態環境再生の技術イノベーション)などを生態学の視点から調査研究を続けている。30年前から熱帯のマングローブ(東南アジア各国)や熱帯湿地生態系(タイ、カンボジア)のフィールド調査研究を行っている。主な著書は、『エコマネジメント入門』有斐閣選書(単著、1991)、『多機能・複合型地域開発経営とエコロジーの共存』K-FACE(共編著、1998)、『環境共生型社会のランドデザイン』NTT出版(共著、2003)、『熱帯生態学』朝倉書店(共著、2004)、『マネジメントの生態学』共立出版(単著、2006)など。

(講演要旨) MAB(人間と生物圏)計画とは、1970年からユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が始めた保全と利用の調和を図る国際的な取り組みです。ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)は、その最も重要な事業として、世界114カ国、580地域(2011年7月現在)で登録されています。また、日本が主張している「自然との共生」の理念にも合致した制度として、国内でも登録を目指す地域が増えています。南アルプスが目指すユネスコエコパークとはどのようなものなのか、ユネスコのMAB計画のもとに進められる世界的な取り組みについて解説します。



講演：照葉(てるは)の森とともに生きる～綾の人と自然とが優しく繋がる町づくり～

講師：綾の自然と文化を考える会代表
綾の森を世界遺産にする会代表
まちづくりコーディネーター・薬剤師・百姓

こうだ みきこ
郷田 美紀子氏

(略歴) 宮城県生まれ。薬剤師。1993年長男の希望を機に農業を始める。1997年薬膳茶房オーガニックごうだ開店。

1998年綾の自然と文化を考える会代表。2000年から草や虫を敵としない「自然農」を実践する賢治の学校・綾自然農生活実践場「食養講座」の講師を8年務める。2003年綾の自然を守る運動の流れから綾の森を世界遺産にする会代表となる。著書「結いの心ー子孫に遺す町づくりへの挑戦ー」評言社(2005年)は父・郷田實さんが他界された後、美紀子さんが加筆し復刊された。

(講演要旨) 綾町は、宮崎県のほぼ中央に位置し、日本を代表する広大な照葉樹林は、2011年ユネスコエコパークに国内推薦されました。

かつて綾は夜逃げの町とまで噂されましたが、今では年間120万人が訪れる観光都市です。郷田さんの父で綾発展の礎を築いた郷田實前町長は、経済効果を優先した森林伐採計画から照葉樹林の森を守り、その自然の恵みを有機農業政策へと繋げたことで全国的に有名です。郷田さんはその父の意思を受け継ぎ、綾の自然と文化を考える会、綾の森を世界遺産にする会の代表として、自然と共生する綾の町づくりを長年見守り続けています。また、薬剤師として自ら農業にも携わり、食の大切さや本当の豊かさを「こころの農」として優しく問いかけています。照葉樹林の森と共に歩んできた綾の町づくりを通して、人と自然とが繋がり合う共生の社会とは何かを一緒に考えてみましょう。

お問い合わせ 南アルプス世界自然遺産登録推進協議会事務局

- 静岡市役所 清流の都創造課(静岡県)
TEL054-221-1357/FAX054-205-2666
- 南アルプス市役所 みどり自然課(山梨県)
TEL055-282-7259/FAX055-282-6279
- 伊那市役所 企画情報課(長野県)
TEL(代)0265-78-4111(内線2141)/FAX0265-74-1250

または最寄りの構成市町村までどうぞ。



※会場専用駐車場はございません。公共交通機関をご利用ください。